

国語

自ら表現様式を選択し継続して表現する児童の育成

-個別最適な学びを大切に新聞づくりを通して-

東金市立東小学校（前大網白里市立大網東小学校）教諭 かとう みゆき 加藤 美幸

書くことの学習では、身に付けた表現様式を選択して活用することが十分に指導されていないことや、教師が書き手の想いに寄り添えていないことが課題として挙げられる。そこで、新聞を書く活動を通して、表現様式を児童が選択し自在に文章を書き分ける力を育てるとともに、書き手を尊重した学習指導過程や学習支援の在り方について明らかにすることを目標に研究を行った。その結果、表現様式を自在に扱う場を設けたことで目的や意図に応じて意識的に書き分ける力を育てることにつながるだけでなく、書き手に寄り添う授業づくりを通して、主体的によりよい文章となるように推敲する力が高めることができた。今後、この成果を研究報告会で積極的に紹介し、授業づくりに活かしていく。

社会

主体的に学び、仲間と協働して納得解を導き出そうとする児童の育成

-社会科学習におけるICTの活用を通して-

大網白里市立大網小学校（前山武市立成東小学校）教諭 なんぶ いおり 南部 伊織

中央教育審議会は、今後の教育活動の在り方について「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る必要があるとまとめている。しかしICT活用において、上記のような活用方法は未だ明らかにされていない現状がある。そこで、小学校社会科第4学年「自然災害から暮らしを守る」の単元において、反転授業を導入し、家庭におけるTeamsのチャネル機能を活用した授業実践を行った。その結果、児童は次時に向けた家庭での調べ学習や、友達との意見交換等の個別最適な学びを充実させ、その成果を授業内の協働的な学びに生かすことで、学習内容をより深めることができた。反転授業の実践知が少ないことから、上記のような実践方法の活用を広めていきたい。

算数

図形の性質を活用して数学的な見方・考え方を働かせる児童の育成

-第5学年「面積」の指導を通して-

市原市立光風台小学校（前袖ヶ浦市立中川小学校）教諭 いけなが たくじ 池永 卓司

学習指導要領の改訂に伴う図形の性質の扱いの変化と、数学的な見方・考え方に関する意識調査から、図形の性質を活用するときどのような数学的な見方・考え方が働いているのかを位置付けた上で、授業改善をする必要があると考えた。小学校算数科第5学年「面積」において、「図形の特ちょうシート」を用いて図形の性質を活用し、学習活動を段階的に設定して「OPPシート」等を用いた振り返りを行う検証授業を行った。その結果、多くの児童が図形の求積場面で図形の性質を活用し、数学的な見方・考え方を働かせることができるようになった。他の単元や学年においても、児童が図形の性質を活用し、数学的な見方・考え方を働かせることの研究と教材開発を継続して行い、手立てを一般化したい。

図画工作

題材の評価規準から児童の姿をイメージ・共有することの有効性の検証

- 下学年の造形遊びにおける実践を通して -

市原市立五井小学校（前水の江小学校）教諭 ^{さくま こういち} 佐久間 洸一

学級担任として、図画工作科の指導と評価に自信がないという課題を感じていた。そこで、同じ題材に取り組む学年の教師たちと六つの題材で授業を実施し、題材の評価規準からあらかじめ児童の姿をイメージ・共有することの有効性を、3点明らかにした。

①教師が授業中の児童の姿をより見取りやすくなること、②授業後、教師がドキュメンテーション（エピソード記録と写真）にまとめることで、児童の学習状況評価につながること、③児童の姿から教師の授業のねらいの明確化、授業改善につながることである。

今後、本県の子供たちの図画工作科における資質・能力をさらに育むため、教師の授業研究の一つの方法として、各学校に広めていきたい。

体育

コーチングスキルを活用した自己効力感を高める 体育学習の在り方

- ベースボール5の教材化を通して -

香取市教育委員会指導主事（前栗源小学校教諭）^{つばき たくま} 椿 琢磨

体育を通して、学習指導要領で求められている予測困難な時代を乗り越える力を児童にどう育むのか。そう考え、「ベースボール5」を教材化し、小学校第3学年を対象として、教師から児童、児童相互のコーチングを活用した授業で「できる見込み感」と定義される自己効力感を高められるか検討を行った。実践的なコーチング方法を座学で学び、児童が理解した上でゲームにて使用した。また、コーチングの使用数を記録したり、称賛やアドバイスを言ったりする活動を取り入れた。その結果、自己効力感、児童相互の肯定的なかかわり、打撃時におけるより良い状況判断力の向上が見られた。今後は、本研究で得た成果を研修会等で周知していくとともに、他単元における有効性の検討を進めていきたい。

技術・家庭

先進的な情報技術とのつながりによる技術観の育成

- スマート農業におけるドローン技術の活用に焦点を当てた学習を通して -

八千代市立勝田台中学校教諭 ^{くまがい みつお} 熊谷 光朗

生活や社会と共に変化し続けている先進的な技術の在り方を、子供たちが自分事のように考えられることが必要であると考え。そこで、スマート農業のドローン技術に焦点を当てた先進的な情報の技術とのつながりを意識した題材の工夫と学習過程を開発し、多様な側面に立って自分事として技術の在り方を考える技術観の視点に立った実践の効果を検証した。その結果、実践による生活概念の再構築や学習を通じた経験と学びを関連付ける発達過程を辿り、環境への影響、職業、労働環境、エネルギーなど、多様な社会的側面とのつながりの中で先進的な技術の在り方を考え、自分なりに意思表示できる技術観を育むことができた。これからも、様々な先進的な技術を扱った実践を行い、検証していきたい。

外国語

中学校英語授業におけるリテリング指導

- プランニングからリプロダクションにとどまらない再話を目指して -

柏市立柏の葉中学校教諭 うえはら みさき 上原 美咲

本研究は、読解後のリテリングを自分の言葉で内容を伝える活動にするために、プランニングが有効であることを明らかにした。これまでの実践の中で、生徒の発話が本文の再生に近い、リプロダクションにとどまっていることに課題を感じていた。また、事前調査でリテリング活動をどのように運用し、評価したらよいのだろうかという教師の声や、即興で自分の言葉でリテリングをするのが難しいという生徒の声を聞くことができた。そのため、リテリング前に5分間、キーワードや絵を使って準備するプランニングが有効であるか検証を行い、発話や振り返りの変容を分析した。今後は、この研究をリテリングの実践例として紹介し、リテリングの可能性について伝える機会を設けていきたい。

小学校外国語

話すこと【やり取り】における主体的な コミュニケーション意欲の向上

- 第6学年における必要感をもたせたスキットの活用を通して -

浦安市立明海小学校（前富岡小学校）教諭 なおえ ゆうき 直枝 祐樹

小学校の担任をしながら、毎日の外国語科を教える中で、児童が「英語を使って話したい」、「やり取りをしたい」と思うにはどうすればよいかを課題意識としてもっていた。そこで本研究では、スキット（寸劇）を単元内に取り入れた上での、児童のコミュニケーション意欲の効果検証を行った。その結果、児童の「英語を話す能力の認識」が上昇し、それに伴って実際の児童のスピーキング能力も向上した。また、具体的な場面や状況を想定したスキットを取り入れた単元構成によって、やり取りを充実させることができ、「楽しい」「もっと話したい」と思える手立てとなった。今後はスキット（寸劇）をより多くの教員が実践できるように運用可能な方法や単元構成を更に考え、県下に広めていきたい。

道徳

自己の生き方について考えを深める道徳科の授業の実証的研究

- 納得解の紡ぎと、ルーブリックを活用した振り返り活動による学習改善を通して -

浦安市立入船中学校（前高洲中学校）教諭 たなか だいすけ 田中 大輔

本研究では、生徒自身による学習改善を図りながら、他者の考えや価値観に触れ、議論を通す中で、納得解を紡ぎ、その納得解に照らして自分自身の生き方を振り返ることで、自己の生き方についての考えを深めるために、中学2年生（2学級）に対し納得解を紡ぐ指導過程と複数時間を通したルーブリックによる振り返りを活用した実践研究を行った。その結果、納得解を基に自己の生き方として実現していこうとする思いや願いをもつことができた。このことから、納得解を紡ぐ指導過程と複数時間を通した生徒自身による学習改善活動は、自己の生き方についての考えを深めることが明らかになった。他学年でも検証を重ね、生徒の学習改善の過程を詳細に分析し、研修会等で報告し、広めていきたい。

現代的教育課題

小学校段階におけるクリティカル・シンキング教育の実践

-教科等横断的な視点でのGoogle Classroomの活用を通して-

野田市立清水台小学校（前七光台小学校）教諭 うえぞの ゆうた 上園 雄太

本研究では、現代社会における情報化の進展と情報氾濫の課題に鑑み、情報を適切に吟味し解釈する能力、すなわちクリティカル・シンキングの向上を目的とした教育手法に焦点を当てた。この研究での目的は、Google Classroomを利用した教科等横断的なアプローチを通じたクリティカル・シンキング教育の効果を明らかにすることである。

具体的には、先行研究を基に効果的な教育プログラムを設計し、実施前後でアンケート調査を行い、学習者のクリティカル・シンキングに関する資質・能力の変化を測定した。その結果、別の教科での関連用語の活用や客観性の向上などの成果が見られた。これにより、学校教育におけるクリティカル・シンキングを高めるための新たな方向性を明らかにすることができた。

特別支援教育課題

知的障害特別支援学校（専門学科・職業コース）
における効果的な教育相談の在り方

-「チーム学校」としてスクールカウンセラーを効果的に活用するために-

県立特別支援学校市川大野高等学園教諭 なかむら まり 中村 真里

知的障害や発達障害を有する子供は、二次障害や精神疾患につながるリスクが高いにも関わらず、特別支援学校における教育相談体制やスクールカウンセラー（以下、SCという。）の配置数には課題がある。そこで、知的障害特別支援学校（専門学科・職業コース）における効果的な教育相談の在り方を明らかにしたいと考え、教育相談体制システムの構築やSCと連携した取組を行った。その結果、教職員が生徒を「見立てる力」の向上や「チーム学校」としての体制強化、生徒の課題解決力の高まりが確認された。本研究が、他職種との連携による「チーム学校」としての支援体制の構築を進め、知的障害特別支援学校における教育相談体制の充実に役立てるよう周知していきたい。

企業等派遣

民間企業における社会動向と

経営手法の実際の考察

県総合教育センター指導主事（前県立浦安高等学校教諭） くぼ よしひろ 久保 善啓

今回私がClassi株式会社（以下、同社）での研修を希望したのは、「組織マネジメント」について研鑽を積みたいと考えたからである。同社は、教育系ITベンチャー企業で、業界トップランナーとしての地位を築いている。本研究では、まず、「マッキンゼーの7S」と呼ばれる組織行動分析モデルをもとに、同社の組織行動について、各個人による情報収集と、ミドルマネジメント機能に着目しながら分析した。特に、「学びのICAPモデル」をもとに、同社の社員の言葉やアンケート調査の結果を検討した結果、目標管理制度の先進的な在り方や組織文化の醸成の取組を学ぶことができた。この成果を今後配属された組織で生かし、生産性の高い学校教育を実現していきたい。